

8才女の子  
自閉症・知的障がい



## 『おかげさま』

「ママ、だあいすき!」心にいつまでも留めておきたい、今の宝物の言葉です。

娘は4歳になるまで、意味のある言葉を話せませんでした。

私は当時、娘からの「ママ」の言葉を聞きたくて呼ばれたくて待ち望んでいました。周りと比べたらいけないのは分かっていますが、どこか寂しくて、顔で笑って心で泣いていました。

そして、私は娘が自閉症だと診断されるまで、恥ずかしながら自閉症についての知識を全く知りませんでした。障がい名の文字を見ても、「自ら閉じる? どういう事? 精神的なもの...?」と大きな勘違いをしていたので、この障がい名自体も、もしかしたら周りの方から、育て方やしつけに問題があるのでは?と勘違いされる事も少なくないのかもしれませんが。過去の私も含め、正しい情報を知らない事は、周りの誰かや知らない誰かの心を無意識に傷つけているかもしれないので、今は沢山の正しい情報を知りたいし、沢山の方にも知ってもらいたいです。

娘の成長過程はゆっくりですが、振り返ると本人が社会の影響を受けながら一生懸命に頑張ってくれています。特性のこだわりの強さもあり、大変な事も多いですが、気にかけて下さる方や助けて下さる方もいます。決して独りではないです。娘のおかげで新たな出会いにも恵まれ、視野を広げる事が出来ました。私もまだまだ子どもから学ぶ事ばかりですが、子どもたちが困った時に助けてあげられる、強く暖かい存在になれるように頑張っていきたいと思います。

7歳・男子  
吃音・学習障がい  
自閉症スペクトラム

## 『諦めずに伸ばせる限り』

息子は2歳半を過ぎ頃から「吃音」が出始め、小学1年生で「自閉スペクトラム症」と「学習障害」の診断を受けました。

もともと主人が吃音という事もあり、吃音に関しては、夫婦2人して敏感になっていました。言葉をしゃべり始め、少しずつ言葉数が増え始めた頃、「あ、あ、あ、ありがとう」などと、スムーズに言葉が出ませんでした。成長段階での言葉のつまりなのか、それとも吃音のはじまりなのか…と悩みました。

そんな中、未満児での幼稚園入園。吃音もあり、母親依存のひどい息子を入園させるのは、とても不安でした。幼稚園の先生方は、とても親身になって対応してくださったのですが、行事や学期の始まり、新級など、日常のリズムが変わる度に吃音の状態は悪くなっていきました。

リズムを手でとったり、ほっぺたを手で押さえたり、首を手で押さえたり、顔を真っ赤にしたり…とにかく言葉を出そうと必死な様子で、見ているこちら胸が痛く申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

このままではいけないという思いから「何かできる事はないか?」と調べた結果「言語聴覚士の先生」という存在を知りました。ある先生には、「吃音は治らない」と言われましたが、私達夫婦は「きっと何かしてあげられる事はある!!」とネットで調べ、現在お世話になっている私達と同じ方向を向いてくださる素晴らしい先生に出会えました。

その先生と共に息子も私達も「リッカプログラム」というものに挑戦しました。その結果、息子には合っていたようで、卒園の頃には、波はあるものの以前の様な状態に戻る事はなく、幼稚園や小学校では、ほとんど出なくなりました。「吃音」って周りの人の関わりやトレーニングで、こんなにも変化が出るものなんだな実感し環境を整えてあげることが大切なんだなと思いました。

息子の事を関わってくださる方々に理解してもらえるように、家族が息子としっかりコミュニケーションをとって支えていくと共に、関わってくださる方々のお力も借りながら、応援していきたいと思っています。